

富中だより



令和3年度合い言葉
元氣なあいさつ笑顔が

一番、仲間を認め合い、地域と共に創る魅力のある学校

(学校便りのこの欄は、生徒の皆さんに読んで欲しい内容が中心です)

神だのみ

校長 水野 秀哲

新学期がはじまり、令和4年も早1ヶ月が経とうとしています。「新年の決意」に基づいて行動し、「なりたい自分」に近づけているでしょうか？

「今年こそと思ってスタートしたのに、全然できてない…」案外多いのではないのでしょうか？決意しても実行はなかなか難しいし、継続するとなればなおさらです。人間は口でいうほど簡単に行動を変えたり、新しい習慣を身につけたりできないのです。

人間、困ったときには、何かにすがろうとします。そこで、神様をお願いしたりします。「困ったときの神だのみ」と言います。お正月は全国各地からお願いが殺到し、きっと神様も大忙しでしょう。そんなに都合良く神様がなんでも叶えてくれるとは思いませんが、神だのみには、気を付けた方がよいことがあるそうです。「そ・わ・か」です。

人間の行為や行動の中で神様が好む3つ、それが「そ」=「掃除」/「わ」=「笑い」/「か」=「感謝」なのだそうです。

まず「掃除」ですが、これには次の内容も含まれます。姿かたち(「立ち姿」「座り姿」「歩き姿」)がきれいな人、心がきれいな人、身の回りをきれいにする人。特に水回りをきれいにすると運気が上昇すると言われていました。

次に「笑い」。笑いは相手に対して肯定的な印象を与え、良い人間関係の基本と言われていました。挨拶も「笑顔」が基本でしたよね。

最後に「感謝」。「ありがとう」をたくさん口にしてみましょう。そうするといいことが起きると言われています。もともと「ありがとう」とは、「有り難し」(=ありえないことが起きた)から生まれた言葉。本来は神様に対して使っていたそうです。ちなみに「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」です。何でも「あたりまえ」と思ってしまうと、人は感謝の心を無くしてしまいます。

ここである言葉を思い出しました。「時を守り、場を清め、礼を正す」というものです。聞

いたことがある人もいます。上の「そ・わ・か」に似ています。

調べて見ると、この言葉は教育学者の森信三先生が職場再建の三原則として提唱されました。学校は職場ではありませんが、この三原則は皆さんが将来に向け、身に付けてほしい行動規範です。

「時を守り」とは、時間や期限を守ることです。時間を守ることは、相手の時間を大切にすることで、結果として相手を尊重することです。それにより自分の信用を積み重ねることにつながります。普段の学校生活を考えてみてください。朝の登校、チャイム着席、提出物の期限を守る等、時間を守ることが求められますよね。できていて当たり前になっているはず。大切なのは意識をそこにおくことです。

「場を清め」とは、3S(掃除、整理、整頓)です。その意味は次の5Kで表されます。「気づく人になれる」、「心を磨く」、「謙虚になれる」、「感動の心をはぐくむ」、「感謝の心がめばえる」の5Kです。学校生活でも自分の身の回りを考えてみてください。毎日の掃除だけでなく、自分が使うロッカーや机の中の整理整頓もそうですよね。

「礼を正す」とは、挨拶をすること、返事をすることです。挨拶は相手の人に心を開くということで、人間関係を構築する基本です。これは何度も書いていきました。生徒会も一生懸命に力をいれてくれて、かなり良くなってきていると感じます。返事も同じで、気持ちの良い返事をすれば人間関係がよくなります。明るく元気よく挨拶や返事をできるようにしていきたいものです。

会社を経営者(社長さんなど)から、従業員(働いている人)の課題として、上記の3つはよく出てくるそうです。「机の上がかたづいていない」「時間ギリギリで余裕がない」「呼ばれても返事をしない」などの行動は、相手に不信感を与え、社会人として失格だとのこと。

神だのみは、どうやら自分の行いを見つめ、笑顔で生活することから始めるのが良さそうです。

将来のために、すべての人が気持ちよく学校生活を送るために、「そ・わ・か」と「時を守り、場を清め、礼を正す」を実践していきましょう。

